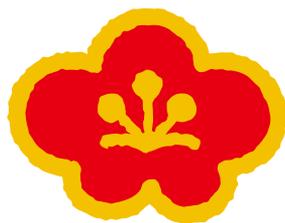


ごけん

平成23年

新春号



日本語検定 実施予定

平成23年度第1回(通算第9回)

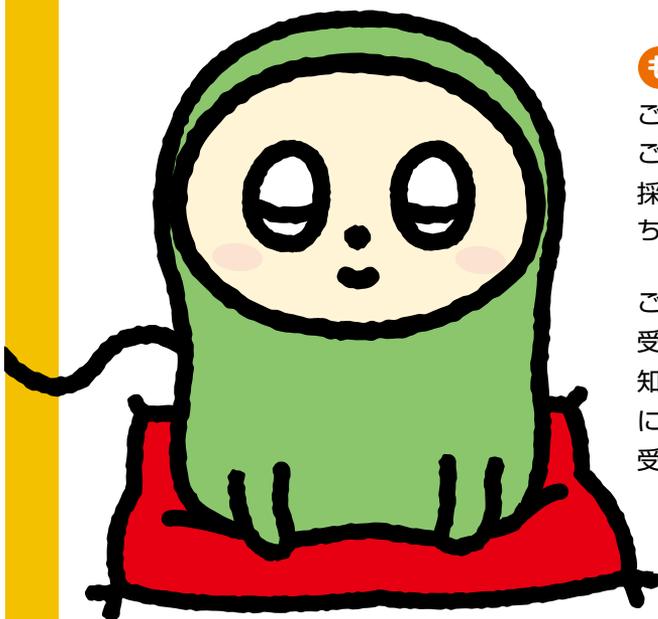
【一般会場】6月18日(土)

【準会場】6月17日(金)・18日(土)

【申し込み期間】3月1日(火)～5月20日(金)

もくじ

- ごけんインタビュー 重松 清—— 2
- ごけん情報板—— 4
- 採点室から—— 5
- ちょっぴり教えてください
「日本語検定」受検テクニック!! — 6
- ごけん質問箱—— 7
- 受検団体・受検者の声—— 8
- 知らなかった! 日本語の歴史① — 10
- にほんご にほんご劇場—— 11
- 受検案内/プレゼント・クイズ— 12



日本語検定公式キャラクター「にほんご」



日本語は、いろんな色の絵の具



ぼく)ふぎけんよ〜)というのものもあるけれど、それができないから、記号や絵文字を付けてやりして、何とか微妙なニュアンスを伝えようとしているわけだ。そう考えていくと、実は今の時代ほど、言葉というもの、日本語に敏感にならないといけない時代はないんじゃないかと思う。

■ 活字離れはしていない、けれど

活字離れと言われているが、権威ある日本語、文学作品などに接していないだけで、1日に読んでいるメールの文字数だけで相当ある。昔より今のほうがずっと言葉に触れている。しかも言葉だけが人間関係のルートになってしまっている。僕たちより上の世代ぐらいまでは、「みなまで言うな」とか、「詳しくは会って話そう」とか、「酒を飲みながら腹を割って話そう」とかいうのがあった。今は詳しい話を、会わなくても素面でもしなくてははいけない。「みなまで言うな」じゃ困るわけだ。言わなきゃ分からないから。こういう時代に、僕たち大人は、ビジネスにおいてコミュニケーションを取らなきゃいけないし、子供たちは子供たちで、仲間内のコミュニケーションを取らなきゃならない。ましてや子供は、大人よりもはるかに語彙が少ない。面と向かっていても思ったことがうまく言えないのだから、誤解や行き違いは当然だ。今の時代、言葉を使いこなすことができる子とできない子の差は、学校の成績という問題じゃなく、生きていくことの大変さにつながる。すべてのコミュニケーションの中で、言葉の占める割合が30年前は60%だったとすれば、今は80%ぐらいになっているかもしれない。受験に役立つとか、そういうものを超えて、人と人のコミュニケーションツールとしての言葉が重要になっている。

■ 空気を読むことの意味

KY……空気が読めないという言葉がある。でも昔から国語の授業では「行間を読め」と言っていた。文章には書かれていないけれども暗黙のうちに流れているものを読めということ。要するに「空気を読む」とは、この場に流れているものの行間を読むということだ。それは想像力、洞察力という点でとても大事なのだが、一步間違えると戦前、戦中にあつたような「同調圧力」、言葉に出してこうするとは言わないが何となくやらなきゃいけないような雰囲気になってしまう。おそらく今言われる「空気」とは、同調圧力のようにとらえられているから問題なのだが、遡っていけば「行間を読め」と根っこは同じ。だからきつと空気を読むことが悪いのではなくて、空気を読んだ後、それに合わせなきゃいけないことが問題なのだろう。一方、空気が読めないことを「マイペース」と呼んだ人もいた。「この人、マイペースだから、ちょっと変わっているから」という言い方をすればいいけれども、KYと言った瞬間にそれが排除の対象になる。言語の恐ろしさは、そこにある。

■ 自分の思いを表現する言葉

言葉、日本語というのは、何か排除とか、変なムラ意識を高めるためのものではなく、よりコスモポリタンになるための、自分にとって一番使える道具、一番の得意技だと思えるようになってほしい。僕たちは数学の問題を解くときでも、英語の問題でも、日本語で考えているわけで、数学の証明問題など、日本語そのものだ。結局、自分の思いや気持ちを一番すんなりと表現できるのは日本語だから、そこを磨いていったほうがいい。でなければ自分の気持ちが、自分自身にも分からないだ

ろう。最近の少年犯罪や、大人の犯罪でも、ムシャクシャしている、うざい、むかつくなどという言葉を書く。しかし本当は、言いたい内容にはいろんなグラデーションがあるはずだ。それはやはり言葉で見つけるしかない。

さっき人とのコミュニケーションと言ったけれども、これはむしろ自分とのコミュニケーション。思春期の子どもたちが日記をつけるのは、自分との対話を大事にするということだ。そのときに、パソコンでいえば色が何十万色もあるのに、12色しか使わないとしたらもったいない。自分の手にある絵の具を増やして、筆を上手に使えたら、自分が何だか分からなくなっているという状態から抜け出せるかもしれない。犯罪を犯した連中がネットに犯行声明を書く、あるいは自殺する子どもが遺書を書くというのは、やっぱり言葉で何かを表現したいのだと思う。恨みかも、悲しみかもしれないけれど、言葉できっちり表現し切ったなら、もしかしたら犯罪や自殺も回避できるかもしれない。自分の思いを、言葉でしっかりとらせることができれば、きつと生き延びられる。

■ 日本語と付き合っていくこと

付き合っていくことだ、言葉と。スポーツや数学などではピークというものがあるが、言葉に関しては、歳を取れば取るほど豊かになっていく。感受性は薄れても、その代わり人生経験を積んで、語彙も増えていく。日本で暮らしている以上、必然的に日本語とは長い付き合いになる。そういう点で、日本語検定には期待するものがある。特効薬みたいにすぐに役立ちはしないかもしれないが、自分にとっての日本語に愛着を持ち、言葉を大切に作るきっかけになるだろう。知る楽しみもある。そこから始めてもいい。(談)

1963年岡山県生まれ。編集者などを経て、91年に『ピフォア・ラン』で作家デビュー。99年『ナイフ』で坪田謙治文学賞、同年『エイジ』で山本周五郎賞、2000年『ビタミンF』で直木賞を受賞。2010年には『十字架』で吉川英治文学賞を受賞。他に、『流星ワゴン』『青い鳥』『カシオペアの丘で』など著書多数。現代を生きる子供たちと家族の姿を優いままざして見つめた作品で人気を集めている。

■ 言葉に敏感になる必要がある

今、インターネットと携帯電話がなければ、日本語について、言葉についてそんなに考える必要はなかっただろう。戦後60数年にわたって、対面コミュニケーションが非対面コミュニケーションに替わっていく大きな流れがある。少し前は電話やFAXだった。今や携帯、メールが主流だ。本来コミュニケーションは、「うーん、それでさあ」「どうしようかな」といったつぶやきや無言の間も含めて、言葉にならない表情とか相づちとか、全部を含んでいるものだ。ところが非対面になると、まずそういう相づちや仕草などが断ち切られてしまう。電話からメールになると、声すらもなくなっていく。手紙ではかわいらしい字で書いたり殴り書きしたりするけれど、その差もなくなってしまう。何がどう書いてあるかという、言葉だけの問題になってくる。

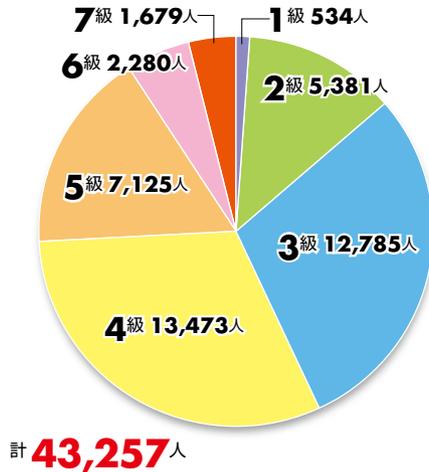
人と人は、面と向かって大きな声を出したり、猫なで声を使ったり、身振り手振りを使ったりして、それでもやっぱり誤解が生じてしまうものだ。100%は分かり合えない。まして携帯を使って140字のツイッターでもとなれば、誤解が起きないほうが嘘だろう。例えば、怒った後に「ふぎけるな」とメールで書くとする。直に会っていれば「(怒って)ふぎけんよ、この野郎!」というのであれば「(冗談つ

ごけん情報板

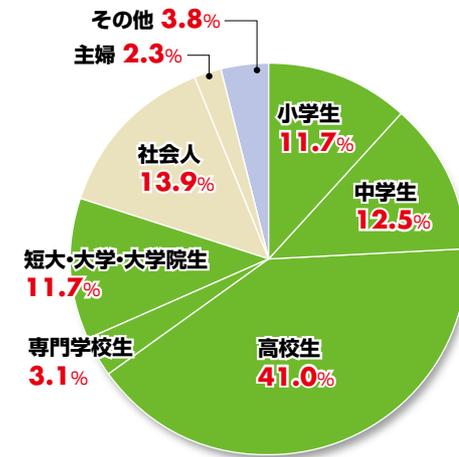
日本語検定もおかげさまで5年目を迎えます。このコーナーでは、昨年11月に実施いたしました、平成22年度第2回（通算第8回）日本語検定について、各級の受検者数などのデータをご紹介します。

◎平成22年度第2回（通算第8回）

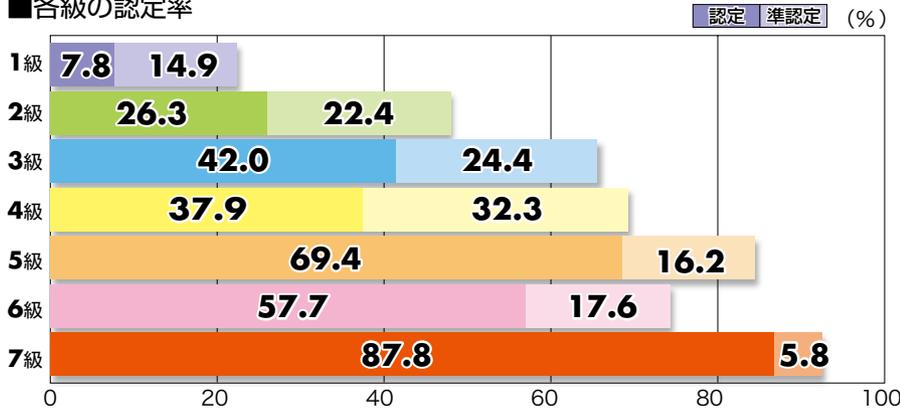
■受検者総数と級別受検者数



■受検者の学校・所属別割合



■各級の認定率



採点室から

「こんな使い方をしていませんか？」

—22年度第2回検定問題より—

日本語検定では、各級で「言葉の適切な使い方」を問う問題を出題しています。ふだんよく見かける言葉でも、その意味や使い方を誤って覚えてしまっていることもあるようです。

☆問い ある言葉を（最も）適切に使っている文はどれでしょう。

■6級

【せっせと】

1. 兄は、朝食を食べ終わると、何も言わずにせっせと学校へ出かけていった。
2. 兄は、どうしても自転車ほしらしく、おこづかいをせっせと貯金している。

(答え：2—正答率33%)

★1は、「さっさと」であれば意味が通ります。

■5級

【きめの細かい】

1. デパートで買い物をしたとき、店員さんのきめの細かい心配りがとてもうれしかった。
2. あまりきめの細かいことばかり気にしていると、何も決めることができないよ。

(答え：1—正答率56%)

★2は、単に「細かい」であれば意味が通ります。

■4級

【いじらしい】

1. 親戚じゅうからお年玉をもらったのに、まだ物ほしそうな顔をするのはいじらしいよ。
2. 幼い妹が、母親と保育所で別れるとき、ちぎれんばかりに手を振る姿がいじらしい。

(答え：2—正答率41%)

★1は、「いじましい」と混同しているような文です。

■3級

【堂に入る】

1. あの日の公演で俳優が見せた堂に入った演技は、すべての観衆を魅了した。
2. 名優として三十年以上活躍してきた彼は、堂に入る日も近いだろう。
3. 会議が始まって一時間以上がたち、ようやく議論が堂に入るところへ来た。

(答え：1—正答率36%)

★2は、「殿堂に入る」と混同しているような文です。また、3は、「佳境に入る」であれば意味が通ります。

■2級

【色をなす】

1. 自分の立場が悪くなると、彼は色をなすて反論し始めた。
2. 予想外の出来事に色をなすた彼女は、突然泣きじゃくり始めた。
3. 開会式には大物歌手も登場して、セレモニーに色をなすた。

(答え：1—正答率50%)

★2は、「色を失う」、3は、「色をそえる」と混同しているような文です。

いかがですか。間違いの多かったものをピックアップしてみました。

間違えた人は、言葉の正しい意味と使い方を辞書で確かめておきましょう。

「日本語検定」受検テクニック!!

～変換ミス問題・同音異義語に注意～

パソコンや携帯電話で文字を入力することが多くなりました。ワープロソフト等で作成された文書は一見整っていて、何の間違いもないように見えますが、それだけに変換ミスによる誤った表記に気がつきにくいものです。日本語検定の3級と4級では、そのような文書作成で陥りやすい変換ミスの問題について取り上げています。

＊次のような文を書くとき、どのような変換が考えられるでしょうか？＊

さんかするひとはじぜんにはいふされたしりょうをもってかいぎしつでたいきしてください。

- 参加する人は事前に配付された資料を持って会議室で待機してください。
- × 酸化する人は慈善に配布された史料を盛って会議室で大気してください。
- × 傘下する人は次善に配賦された飼料を以て会議室で大器してください。

⋮

変換ミスの原因は同音異義語・同訓異字です。同音や同訓の漢字が多い言葉を使うときは、前後の文脈に沿った正しい語を選ぶように注意が必要です。

【その他の間違いやすい同音異義語・同訓異字の例】

あらわす	表す・現す・著す	つとめる	務める・努める・勤める
いし	意志・意思・遺志	てんか	転嫁・転化・添加・天下
かてい	家庭・過程・仮定・課程	のぼる	上る・登る・昇る
せいちょう	成長・生長・清澄・静聴	へいこう	平行・並行・平衡・閉口
たいせい	体制・大勢・態勢・耐性	もと	元・下・基・許

今回のまとめ

パソコンや携帯電話で文書を作成するときは、
同音や同訓の言葉の表記に気を付けて！



ごけん質問箱

回答者
日本語検定委員会研究主幹
川本信幹

「ごけん質問箱」では、皆様からよせられた日本語に関する質問にお答えいたします。

送り先につきましては、最後のページをご覧ください。

【駒沢学園女子中学・高等学校 稲津恵子先生からの質問】

質問 お役所からの指示に「新型インフルエンザによる休校に伴う授業補填」とありましたが、「補填」は経済的損失でなくても使うのでしょうか。

回答 一般の国語辞典には、「赤字を補填する」という用例が掲載されているため、「補填」という言葉は、金銭的・経済的なケースで用いられると考える向きもありますが、実はそうではありません。今日では、医学用語として「骨補填材」、歯科用語として「補填物」などと用いられています。

「補填」の原拠は、『大言海』『大日本国語辞典』以後『日本国語大辞典』に至るまで、『旧唐書』(945年成立、我が国の平安時代)の「是事節儉、百計補填。經費之中、未免懸欠」としています。たしかに、昔も赤字はちょっとやそっとのことでは埋まらなかったようです。

『日本国語大辞典』によると、文献初出は、江戸時代末期に書かれた『都繁昌記』(1837)の由です。旧日本陸軍のマニュアル『歩兵操典』(成立年は分かりませんが、多分明治時代の半ばでしょう)にも用いられています。ただし、『日本国語大辞典』の引用文は、1928年の『歩兵操典』によるものです。

三島由紀夫が『金閣寺』(1956)の中で「人に劣ってゐる能力を、他の能力で補填して、それで以て人に抜きん出ようなどといふ衝動が、私には欠けてゐたのである。」と用いているのはご存じの方もありません。

おもしろいのは、他にも例があるように、漢字を逆さまにして「填補」として用いられていることです。古くは、商法(1899)に見られ、夏目漱石が『道草』(1915)で「彼女の填補した金は斯くして黙って受け取られ、又黙って消費されてしまった」、『明暗』(1916)で「毎月の不足を、京都にゐる父から填補して貰ふことになった」と用いています。

むろん、「補填」も「填補」も意味は同じです。

日本語検定の取り組みについて

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部
キャリアセンター 係長 宮本 忠之 先生
日本キャリア開発協会 CDA(キャリア ディベロップメント アドバイザー)



就職指導は、自己分析から始まり履歴書やエントリーシートの添削、そして面接訓練と繋がっていきます。日本語を適切に使いこなすことは、就職活動では欠かせないものであり、以前から指導の必要性は感じていました。また、仕事上、各企業の人事採用担当者と会うことも多く、その中で、「最近、大学生の言葉遣いが出来ていない。社会人として恥ずかしいレベルだ。」ということをよく聞き、改めて若者の日本語能力に危機感を感じていました。このような背景があり、平成20年11月から日本語検定を実施する運びとなりました。

大学生の反応は意外なもので、正しい日本語が使えていないという自覚を持った学生が多いことに驚きました。学生は、日本語が上手

く使えていないということに気づいていた反面、必要に迫られていないので、このままで良いだろうと安易に考えているところがあります。

ある学生が、面接試験で「最近勉強していることは」と聞かれ、日本語検定と答えると詳細を聞かれたそうです。採用担当者は以前から社員の文章力や言葉遣いに危機感を持っており、その学生に入社したら率先して社内での正しい日本語の勉強会を開くように言ったそうです。彼は改めて日本語の良さや難しさを知り、社会で活躍するには必要不可欠とまで言って卒業していきました。これからも一人でも多くの学生に日本語の良さに気づいてもらうために日本語検定の実施を続けていきます。

ニホンゴ キトク スグカエレ

仁川学院中学・高等学校 副校長 松井 仁 先生



冒頭の言は、作家・演出家である久世光彦氏が日本語をめぐる状況を憂えて、警鐘を鳴らしたものである。確かに日本語力(国語力)の低下現象を嘆く声はここ数年、枚挙にいとまがないといえるだろう。一方で「国語って心を清くするためにやっているのですか」(平成21年11月 兵庫県国語部会研究大会)という授業実践レポートがある。多くの国語科教員はこういう声にどう応えるのか。

公立高校教師、予備校講師、中小企業家、私学管理職と馬鹿を重ねてきた私の率直な所感、中学・高校現場の現実が、教材内容の解説、伝達、あるいは感化主義に終始しているのではないかということである。生徒の現状

でも自己PR書、志望動機を書かせても、一様にステレオタイプで、自分がそれまでやってきた体験・学びなど「そのこと」の意味を分析できず、外への視点も皆無に等しい。段落構成はとれず、接続関係が分かっていないし、形容詞で文章は腐るのに形容詞を多用する。

要するに「ものを考え、伝える時の枠組みである文法を教えることに臆病」(井上ひさしの言)な教師が多く、系統立てて教えてこなかったのではないか。これまでも長年議論されているが、もうそろそろ、「国語」を「日本語」

という名称に切りかえて、文法構造、言語技術の方法をしっかりと教える教育実践をすべき時である。日本語の技法は将来の就職にあたって、A4判用紙一枚にまとめる力が要求される。また報告書、企画書、伺書等の作成も必要になる。日本語を使いこなすことは社会と接続することである。その意味でも、ことばの使い方、正しい漢字、慣用表現、論旨の展開法などの言語的訓練をきっちりとする必要がある。いま東京都世田谷区、新潟県新発田市で実施されている「日本語」教育は、白眉の実践といえよう。そして私たちがほんの少し、頭の片隅に置いて

ておきたいことがひとつある。それは時折、粹な手紙、葉書、あるいはお世話になった人に出すさわやかな御礼状が書けるというシチュエーションを持つということである。

かつて読んだ本の中に、こんな葉書のやりとりがあった。「いかさし、ぶりさし、さしすせそ」とだけ書いて投函。すると、相手は、「ふぐちり、たらちり、たちつと」と返信したそうなの。久し振りに盃を酌みかわしての清談——かくありたいもの。

日本語力をさらに伸ばしたい

熊本県立大学文学部 平井 健吾さん



日本語検定を受検した理由は、自身の日本語の能力を見直したいと思ったからです。近年、若者言葉や略語、「おビール」といった不適切な敬語用法など日本語の乱れが問題とされ、誰にでも分かる間違いから、社会人でさえ気付かずに使用しているものまで、様々な種類があります。

言葉の変化それ自体は、その言葉が間違いだとして理解した上で、それを使用しても差し支えない、例えば友達同士のような間柄でのみ用いるのであれば、問題ないと思います。むしろ問題にすべきは、それこそが正規の用法であると勘違いしている場合や、謙譲語や尊敬語といった、時や相手によって変えるべき用法を上手く使用出来ない状況であると思います。

私自身もそう考えて、時や場所、話す相手に対応した言葉遣いを心掛けていますが、未だ完璧に使いこなせていない部分が多々あります。そこで日本語検定を通してしっかり日本語について学び、自身が実際にどれ程の能力を有しているのかを、就職活動を控えた今、改めて見極めたいと思いました。

検定試験を終えた感想としては、日頃心掛けている、状況や相手に即した言葉遣いといった部分に関しては、あまり問題なく解答出来たと思いますが、適切な漢字の使用や読み方、意味の理解といった、漢字の分野において力不足を感じました。その理由としては、講義の板書を写す際に、面倒臭がってあまり漢字を用いていないこと、パソコンや電子辞書の自動漢字変換に頼り、自身で考えて表記をしなくなったことが挙げられると思います。今後は板書を写す際に漢字を使うようにしたり、分からない漢字も電子書籍ではなく、本の漢和辞典を引いたりするなどして、漢字についてしっかりと学ぶ姿勢を取っていきたく感じました。

日本語検定を受検することで、自身の現在の能力や、課題にすべき点を見極めることが出来ました。今後はこれらの結果を基に、さらに自身の日本語能力を養っていきたく思います。

私たちがふだん話している現代日本語の発音は、古代日本語の発音とは大きく異なります。

ハ行の例を挙げてみましょう。現代日本語ではハ行は「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」と発音します。しかし、平安時代から室町時代にかけての日本語では、語頭音（単語の最初の音）のハ行は「ファ・フィ・フ・フェ・フォ」とF音で発音されていました。そのことは、室町時代末期（16世紀末）のキリシタン資料に、「fito（人）」「faru（春）」と語頭音のハ行がローマ字「f」で表記されていることなどからわかります。ハ行のこの発音のしかたは江戸時代の初め頃まで続き、江戸時代の間ハ行は現在のような「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」の発音へと変化しました。現代日本語のハ行の「フ」という発音は、当時のF音の名残です。

もっと古い時代、奈良時代以前にはハ行のF音はP音であったと考えられています。「ファ・フィ・フ・フェ・フォ」と発音される以前、古代日本語のハ行は「パ・ピ・プ・ペ・ポ」と発音されていたわけです。このことは、奈良時代に使われていた単語の多くを方言彙集として現代まで伝えている沖縄方言の中に、「パナ（花・鼻）」というハ行の発音のしかたがあることから推測できます。つまり、日本語のハ行は長い時間をかけて「パ行→ファ行→ハ行」と変化をしてきたこととなります。

奈良時代のハ行がP音で発音されていたものと仮定すると、『万葉集』（8世紀）にある大伴家持のこの有名な歌は、カタカナのように読まれていたこととなります。

うらうらに 照れる春日に ひばり上
がり 心悲しも ひとりし思へば

（ウラウラニ テレルバルピニ ピバリアガリ
ココログナシモ ピトリシ オモペバ）

『万葉集』巻19・4292

ハ行の箇所をパ行に置き換えてみると、現代日本語を話す私たちにはこれらの発音は異様な感じがしますが、平安時代の『古今和歌集』（10世紀初）にも次のような歌があります。

梅の花 見にこそまつれ うぐひすの
ひとくひとくと 厭ひしもをる

『古今和歌集』雑体・1011

この歌の「ひとくひとく」とは、「人來人來」ということばとウグイスの鳴き声とを掛けた表現です。この歌の作者はウグイスの鳴き声を「ピークピーク」と聞き取ったわけで、それは現代日本語での鳥の鳴き声の擬音語「ピークピーク」にととてもよく似ています。ハ行をパ行に換えると、「ひばり」は「ピバリ」、「ひよどり」は「ピヨドリ」となり、鳥の鳴き声の擬音語「ピー」が現れます。また、「光る」は「ピカル」となります。稲妻などが「ピカピカッ」と光る様子が連想されませんか。和語（日本語に元々ある単語）のハ行をパ行に換えてみると、日本人には感覚的に理解しやすい擬音語・擬態語が現れる場合があります。

現代日本語の中にもハ行がかつてパ行であったことの痕跡は見られるのです。

にほごん にほんご劇場



絵：福政真奈美

うご たけのこ
「雨後の筍」

（雨上がりには筍が次々と生えることからよく似た物事が次々と現れることのたとえ。）

例 新線が開通したことにより、沿線の地域には新しいマンションが雨後の筍のように現れている。



平成23年度 第1回 日本語検定 受検案内

- [一般会場] **6月18日(土)**
[準会場] **6月17日(金)・18日(土)**
[申し込み期間] **3月1日(火)～5月20日(金)**
[実施都市] 全国の100都市以上で実施予定

[受検級の目安と受検料]

受検級	受検料	社会人	大学生	高校生	中学生	小学校 高学年	小学校 中学年	小学校 低学年
1級	6,000円							
2級	5,000円							
3級	3,500円							
4級	2,000円							
5級	1,500円							
6級	1,500円							
7級	1,400円							

※1級の受検は、2級認定の取得が条件となります。

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げた、
ことわざ「雨後の筍」は、どう読むでしょう。
○○○○の部分にひらがなを入れてください。

『うごの○○○○』



はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先（お電話またはメールアドレス）を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。抽選で20名様に、日本語検定委員会特製「にほんごストラップ」をプレゼントいたします。平成23年4月末の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

（応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。）

質問をおよせください！

日本語に関する質問を、お手紙やメールで、日本語検定委員会「ごけん質問箱係」までおよせください。
いただいた質問の中から、日本語検定委員会・研究主幹の川本信幹先生がお答えします。

※ご質問は、日本語検定を受検された方か、受検を検討されている方に限らせていただきます。
※日本語に関する質問以外にはお答えいたしかねますので、ご了承ください。

メールアドレス
info@nihongokentei.jp

特定非営利活動法人
 日本語検定委員会

〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1
【お問い合わせ先】 **0120-55-2858**
<http://www.nihongokentei.jp>